



嵐山だより

京都市立嵐山小学校 校長 松本 亜紀子

～学校・家庭・地域のつながりを深めていきます～ 学校評価Ⅰ

学校評価を本校の教育活動の推進に積極的に生かしていきます

子育ては、学校と家庭、地域と共にする共同作業です。「いっしょに考えて解決の道を探りましょう。」という内容もあります。また、同じ課題であっても、戴いたご意見の賛否が分かれる場合もあります。あるいは、学校として早速に改善の方法を取ってはみたけれども、解決まで時間がかかりそうだという場合もあります。このような点にもできるだけご理解を頂きながら、学校・家庭・地域のつながりを深めていきたいと思えます。

「このアンケートによって何がかわるのですか。」というご意見もあることでしょう。「学校評価」に記述頂いた内容を真摯に受け止め、取り組んでいこうと思っております。学校評価が、学校（教師）と保護者の方のコミュニケーションを図る場としてさらに充実するようにしていきたいです。

たいへん遅くなりましたが、学校評価の結果をお知らせします。同じ設問について保護者と児童、教職員の見方・感じ方がどのように違うのか、あるいは似かよっているのかを考察し、そこから見えてくる事実注目したいと思います。

「4」よくできている 「3」どちらかといえばできている
「2」どちらかといえばできていない 「1」できていない

1. 子どもの姿について

①「子どもは、毎日楽しく学校生活を送っていると思われませんか。」

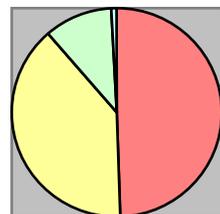
「あなたは、学校が毎日楽しいですか。」（児童）

保護者（約400名）



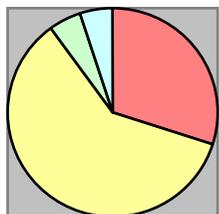
「4」…68%
「3」…30%
「2」… 1%
「1」… 1%

児童（約400名）



「4」…52%
「3」…41%
「2」… 5%
「1」… 2%

教職員（約20名）



「4」…30%
「3」 60%
「2」… 5%
「1」… 5%

12月臨時号

平成27年12月22日

京都市立嵐山小学校

TEL 872-1466

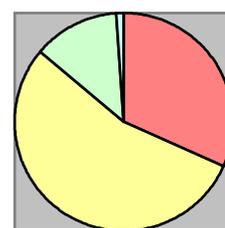
FAX 872-1467

三者とも「4」と「3」の評価が多数を占めました。嵐山の子どもは「おおむね学校生活を楽しんでいる。」と言えそうです。このことは、とてもうれしいことです。でも、「毎日」というわけではないというのが実感でしょうか。悩みを抱えている子どももいるでしょう。その悩みを解決できる道をいっしょにさがしていきます。「学校は、楽しい。」と笑顔で語ってくれる子どもたちがどんどん増えていくように、取組を進めていきたいと思っています。

②「子どもに、基礎・基本の学力がついていると思われませんか。」

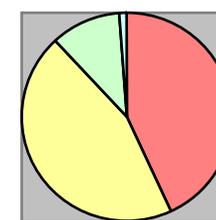
「あなたは、学校の勉強がよくわかりますか。」（児童）

保護者



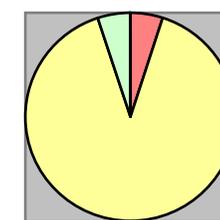
「4」…32%
「3」…54%
「2」…13%
「1」… 1%

児童



「4」…43%
「3」…45%
「2」…11%
「1」… 1%

教職員



「4」… 5%
「3」…90%
「2」… 5%
「1」… 0%

*子どもたちに基礎・基本の学力をしっかりと身につけさせることも本校の教育活動の大きな目標です。そのひとつが全校で取り組んでいるチャレンジタイムです。また、普段から「わかる授業をつくること」を心がけていますが、それぞれの家庭でも「家庭学習の習慣をつけること」へのご協力をどうかよろしくお願い致します。地道な実行が確かな成果をあげます。

記入欄から（○は保護者の意見 ◆は教職員の意見）

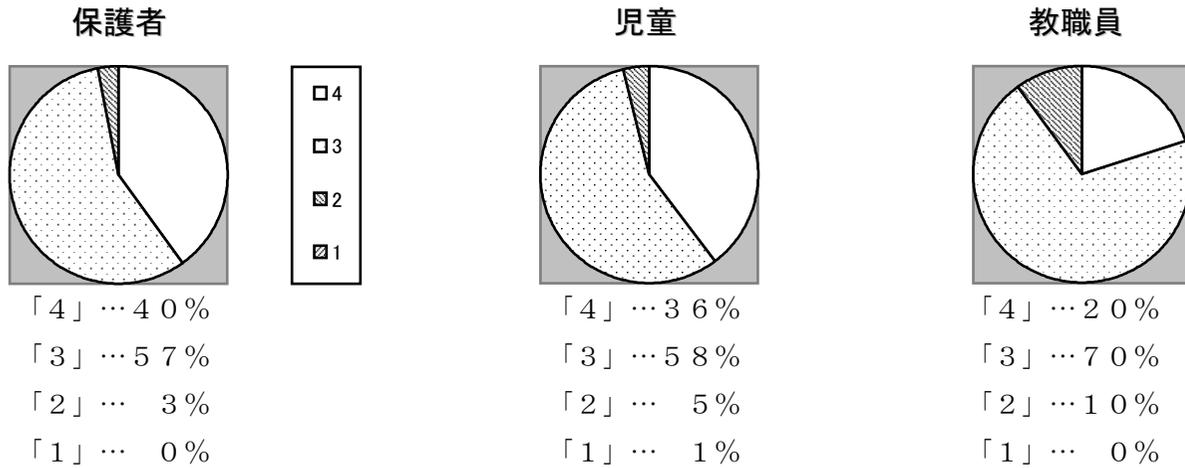
○授業はとても楽しく、一つ一ついいいにされていることに感動しました。わかりやすく、子どももついていける感じがしました。

○家庭での学習習慣を身につけるといふ面から、今の漢字だけでなく、算数も定期的に出してもらいたいと思います。

◆授業に関して子どもたちが、「知りたい、学びたい」と思えるような展開や発問がまだまだできていないと感じました。そのために、他の先生方の授業をみせていただいたり、教材研究を十分したりすることで子どもたちの学習意欲を高められるようになりたいです。

③「子どもに、思いやりのある優しい心が育っていると思われますか。」

「あなたは、学校の友だちにやさしくできていますか。」(児童)



*9割以上の保護者の方が「やさしい心が育っている」と思っておられます。一人ひとりはいいい子ですが、集団になるとどうでしょう。ほんの些細なことから、口げんかを始め、思いやりのない言葉をあびせあうことから、ひどいけんかになってしまうことがあります。この「もめごと」は、子どもたちだけでは解決できないことがあります。そのときには、「なぜ、このようになってしまったのか。」「これから、どうしていくことがよいのか。」指導者は、子どもといっしょに振り返って考えていきます。この「もめごと」を解決するために話し合いをしていきます。自分のおもいを伝える力、相手のおもいを聴く力をつけていくことが大事です。この学びがあってこそ、つながりをつくることのできるのです。

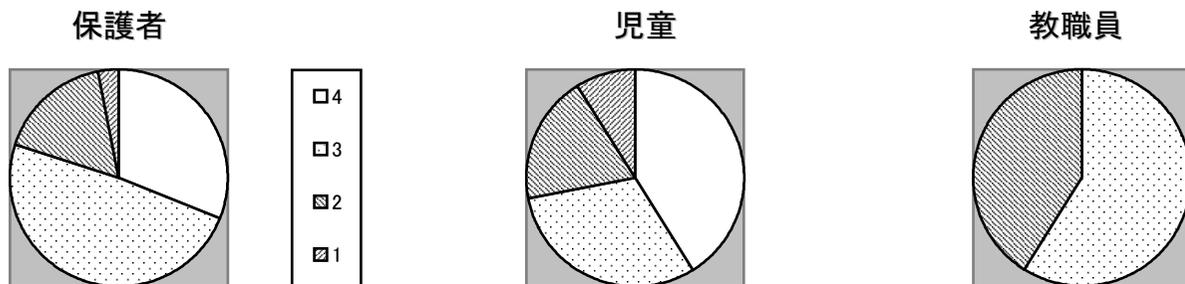
思いやりの心を育てるには学校では、授業だけでなく、あらゆる活動場面で、指導していかなければならないと思っています。

記入欄から (○は保護者の意見 ◆は教職員の意見)

○重い荷物を持っていく日は、集団登校のお兄さんやお姉さんが「持ってあげるよ。」と声をかけてくれたり、校内でけがをすると、誰かが助けてくれたりするそうです。

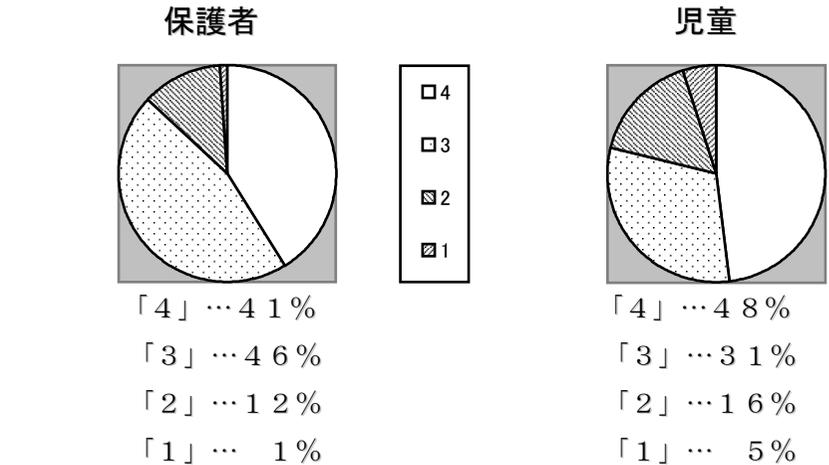
④「子どもは、家庭で学習する習慣がついていると思われますか。」

「あなたは、家で決まった時間に勉強していますか。」(児童)



⑤「子どもは、家庭で学校のことや友だちのことを話していますか。」

「あなたは、お家の人と学校のことや友だちのことを話していますか。」(児童)



*この項目は、子どもたちには、「学校であったことをお家の人にたくさんお話ししましょう。」そして、保護者の方々には、「子どもの声に耳を傾けてください。子どもと向き合って話をしてください。」と学校から強く働きかけていることです。

保護者の方の13%が「どちらかと言えばできていない」に対し、子どもたちは、少し上回る割合でできていないと答えています。

「子どもが何でも話してくれるのは、ずっと前から毎日本を読み聞かせたり、歌を歌ったり、いろんなことを話し続けてきたからでしょうか。」(「子どもはステキな話し相手」より)
お子さんが話しかけてくる前にお家の方からたくさん話しかけてあげてください。

「4」…31%	「4」…41%	「4」…0%
「3」…49%	「3」…31%	「3」…59%
「2」…17%	「2」…19%	「2」…41%
「1」…3%	「1」…9%	「1」…0%

*この項目は8割の保護者の方が「家庭で学習する習慣がついている」と思っておられます。おうちでは、子どもたちは、学習する姿があるのでしょうか。しかし、教職員からの評価は4割が「習慣がついていない」と回答しています。このことについて、個人懇談会などでご家庭の様子を聞かせていただきながら子どもの様子を捉えていきたいです。また、子どもたちへは、「家庭学習の大切さ」をさらに指導していかなければならないと感じました。



嵐山だより

学校評価 II

京都市立嵐山小学校 校長 松本 亜紀子

12月臨時号

平成27年12月22日

京都市立嵐山小学校

TEL 872-1466 FAX 872-1467

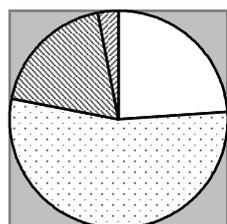
⑥「子どもは、おうちや地域であいさつをすることができていると思われますか。」

「あなたは、家の人、教職員の皆さん地域の人にあいさつをしていますか。」(児童)

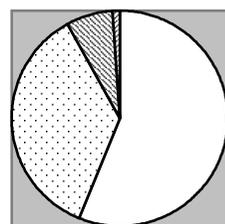
保護者

児童

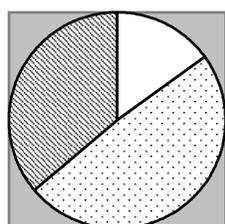
教職員



「4」…24%
「3」…54%
「2」…19%
「1」…3%



「4」…56%
「3」…36%
「2」…7%
「1」…1%



「4」…15%
「3」…49%
「2」…36%
「1」…0%

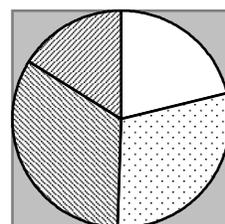
⑦「子どもは、家庭で読書をしていますか。」

「あなたは、家で読書をしていますか。」(児童)

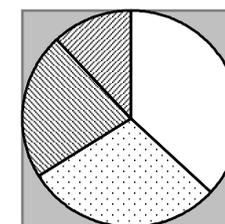
保護者

児童

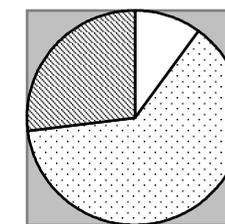
教職員



「4」…21%
「3」…30%
「2」…33%
「1」…16%



「4」…37%
「3」…29%
「2」…22%
「1」…12%



「4」…10%
「3」…63%
「2」…27%
「1」…0%

*この項目に関しては、今までも児童会活動の取組で「スマイルデー」を設け、全校の子どもたちに児童会役員の子どもたちが呼びかけて意識づけをしたり、また、あいさつの大切さを劇にして児童朝会で発表したりして働きかけてきました。今年度は、さらに教職員も正門で子どもたちを迎えられるようにしています。

記入欄から (○は保護者の方から、◆は、教職員から)

○朝の集合場所で大人があいさつをしても、元気にあいさつができる子が少なくとても寂しく思います。みんなが、大きな声であいさつができるようになってほしいです。

○全体的に低学年でも登下校などで「言葉遣い」が悪いように感じます。あいさつは、以前よりはできているように思います。

◆目を合わせて元気よくあいさつをする子が少ないと感じています。徹底してあいさつをすることを習慣づけられたらと思っています。

◆自分の学級もとても気になっているのですが、あいさつが自分からできる子どもが少ないと思います。朝や帰りは、もちろんですが、来校者の方にも大きな声であいさつができるようになってほしいと思います。

*朝一番に顔を合わせるのは家族です。家庭の中でも「おはよう。」のあいさつからスタートできるようにしていきたいですね。

*今年度から本校の研究教科を国語科としました。よりいっそう読書の楽しさや喜びを知って、進んで本を読もうとする習慣を身につけてほしいと願っています。そのために、嵐山読書マラソンの実施、読書週間を設定して取組をしたり、図書委員会の子どもたちが、「ビブリアバトル」をしてくれています。また、図書ボランティアの方々の読み聞かせも子どもたちはたいへん喜んでています。

さらに図書室の充実を図るために冬休みに改修工事を行います。また、かねてから京都市教育委員会に要望を出しておりました図書室用の机と椅子が1月に入ることになり、子どもたちにとってよりよい環境が整うことになりました。

学校で読書をする機会が増えることで、家庭での読書の時間も増えていくことと思っております。ご家庭でも「読書タイム」の時間をつくって家族で本を開けるひとときをぜひお願いしたいです。

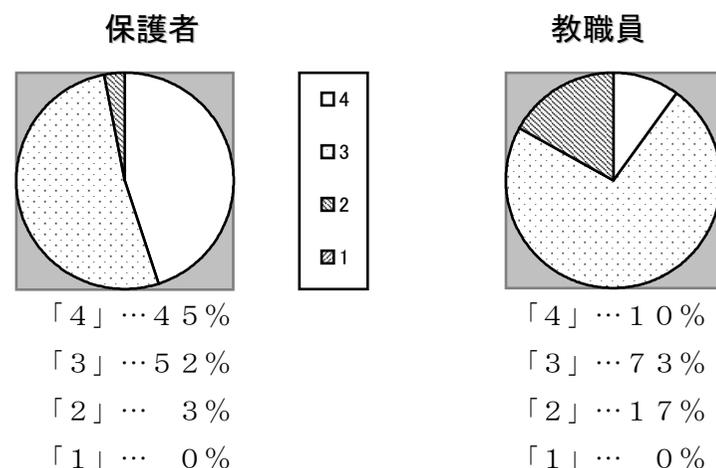


記入欄から (○は保護者の意見 ◆は教職員の意見)

○図書室にたくさん本があるようで、本を借りて帰るのがうれしくて仕方がないようです。テレビよりも本を見る時間が長いです。

2. 教育活動のようすについて

⑧「学校の教育方針や教育活動について、家庭にわかりやすく伝えられていると思われませんか。」(伝えることができていると思えますか。)



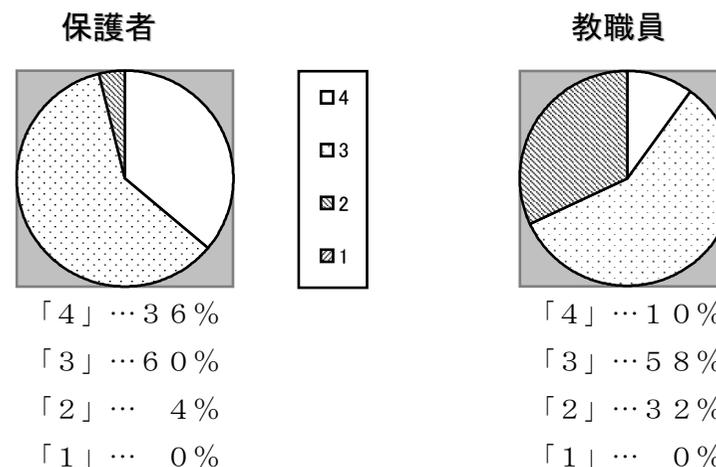
*教育方針や教育活動の伝え方としては、「嵐山だより」や「学校保健だより(からころからころ)」, ホームページ, 学級通信や懇談会, 家庭訪問, 通知票, 連絡帳, 電話, 子どもを通してなどの方法があります。この項目はわれわれ教職員にとって大きな責任です。今後もしっかり説明責任を遂行していきたいと思えます。

記入欄から (○は保護者の方から ◆は教職員から)

- とにかく学年だより, 学級だよりは, 持ち物やこの先の活動などもわかりやすく助かります。
- 家で学校でのうれしかったこと, 楽しかったこと, 嫌な思いをしたこと, 友だちの話をたくさんしてくれるので, だいたいのはわかっているつもりです。先生も, 気になることなどきちんと連絡をしていただきありがたく思います。親としても楽しく学校生活を送ってくれることを望んでいますので, 今後も先生方とコミュニケーションをしっかりと, 子どもの様子をしっかりとみていきたいと思えます。
- 最近の学校での様子(授業中, 休み時間など)を詳しく教えてもらいたいです。

*学校の教育方針や教育活動等を「嵐山だより」等でお伝えしていますが, 十分だとは考えておりません。さらに工夫を重ねお伝えできるように努力していきたいと思っております。また, 学校ホームページも少しずつ更新しておりますのでご覧ください。

⑨「学校は, 子どもにわかりやすい授業を進めていると思われませんか。」
(子どもにわかりやすい授業を進めることができていると思えますか。)



*よい授業をすることは, 教師の大きな仕事で「授業ができる力をつける」ことにすべての教職員が一丸となって取り組んでいます。保護者の方々には, 「4」と「3」の合計で9割を超える評価をいただきましたが, 本校の教職員は, まだまだ改善していかなければならないと思っております。これからもよりよい授業をめざしていきます。

記入欄から (○は保護者の方から ◆は教職員から)

- 授業のことで子どもが話すのは, 「周りの席の子がうるさくて, 先生の話に集中できない, 先生の声が聞こえない。」という内容のことばかり。子ども自身苦手意識のあるものは, どうやら周りに流されて聞いていないのではと心配になります。
- 先生の子どもたちに対する情熱が子どもの楽しそうな毎日の会話から伝わってきます。本当にありがとうございます。政治の流れを見ていると, 子どもたちが戦争に巻き込まれる時代が意外にすぐちかくにあるようで怖さを感じます。江戸幕府が階級制度を整え, 権力を安定させていった中, どんなに悲しい思いをした人がいたか……。子どもの身を守る上で, 知ってほしいことがたくさんあります。できるだけ教えてやってほしいです。多感なこの時期, 楽しい学校, よい先生, 優しい地域の方に守られ子どもは本当に幸せだと思います。

*私たちは, 子どもたちが主体的に学習している姿をめざしています。そのためにはまず, 子どもたちが, 「しっかりと話を聞くこと」「はっきりと自分のおもいを表現できること」がたいへん大事です。子どもがおもいを伝え合うことで, 考えが広がったり深まったりするのです。学級で学習する大きな価値があるのです。授業だけでなく学校の教育活動すべてにおいて日々の指導が重要であると考えています。



嵐山だより

学校評価 III

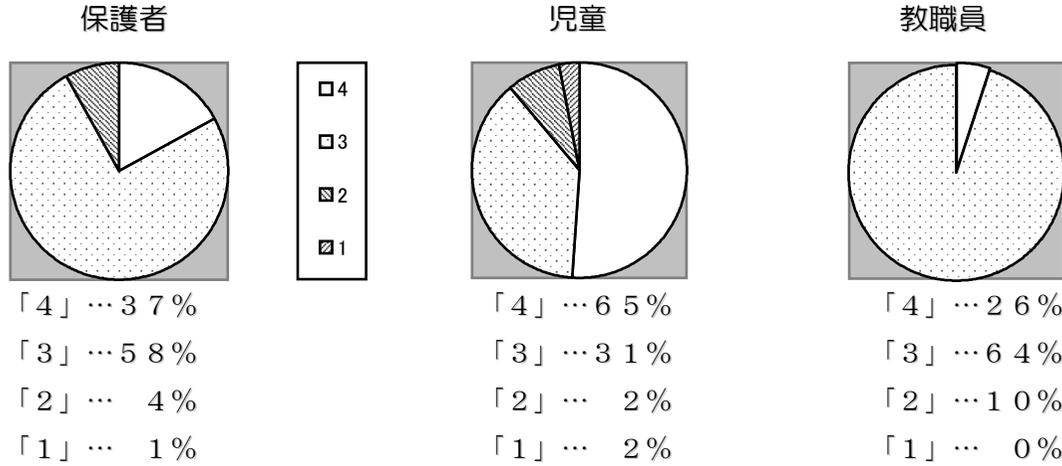
京都市立嵐山小学校 校長 松本 亜紀子

12月臨時号
平成27年12月22日

京都市立嵐山小学校
TEL 872-1466 FAX 872-1467

⑩「学校は、一人一人の人権を大切にした教育活動を行っていると思われませんか。」

「先生は、一人一人のことを大切にしてくれていると思いますか。」(児童)



*この項目では、保護者の方、子ども、教職員の9割以上が「4」「3」と答えています。しかし、少数ではありますが、子どもの中には「大切にされていない」と感じています。また、私たち教職員の1割が「できていない」と振り返っています。それは、子どもの思いをしっかり受け止められていないと感じているのでしょうか。また、子どもに教師の思いを伝えきれていないのかもかもしれません。私たちは、日々保護者の方々、子どもたちとの関係づくりに努力をしています。時間をかけて個別の対応を充実させていきたいと思っています。



記入欄から (○は保護者の方から ◆は教職員から)

○人権は、とても大切なことだと思います。先生のたくさんのお話を聞いて、命を大切にできる子どもたちに育ってほしいと思います。地域のおじいちゃん、おばあちゃんとの時間をもつのもいいことだと思います。

◆学級の子ども、一人一人を大切にしてきたつもりでしたが、思いが伝わっていなかったことや、個人的なことなど考慮せず発した言動などが反省であり課題だと思っています。

◆子どもとの関わりに関して、全体をみられていなかった場面が多々あったので、毎日全員と関わり成長や変化に気付けるようになりたいです。

◆日々のやらないといけないことややらせたいことではいっぱいになってしまいがちなので、もっと余裕をもって子どもと接したいです。

*嵐山小学校の人権学習として毎月1回10日の「スマイルデー」は、すべての子どもに人権意識を育てることをねらいとしています。子どもたち一人ひとりが大切にされているかを考える「心の教育」です。毎月、全校で同じ内容の学習をしています。それを、各学年の実態に応じてさらに検討して意識を高めています。

先日配布しました「人権尊重標語作成のお願い」もこの取組の一環です。12月の「人権月間」では、「かけがえのない一人一人の生命と人権を尊重する精神」を育むために指導しました。ご家庭に持ち帰っておりますので、共に考える時間にしていただければと思います。

今年度は、昨年度に考えていただいた作品を学校掲示をさせていただき日々の指導に役立てております。

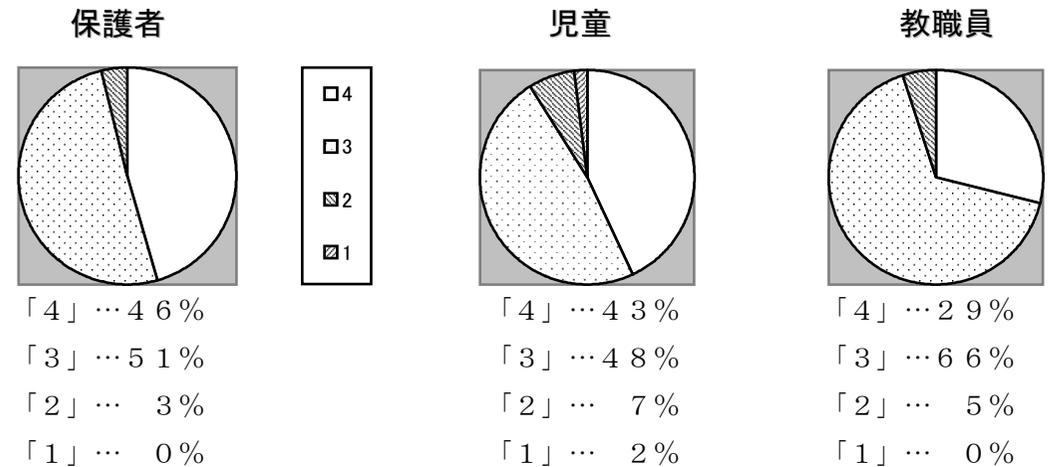
平成27年度 12月・1月の人権標語 (嵐山小 家族で考える人権標語 応募作品より)

たすけたよ みんながなかよく わらったよ

⑪「学校は、子どもの安全について配慮をした教育活動を行っていると思われませんか。」

「あなたは、廊下を走らない、安全に登下校するなど学校のルールを守っていますか。」

(児童)



*子どもの1割弱が、「学校のルールを守っていない。」と答えています。危険な遊びだけでなく学校のルールを守ることは、社会の一員としての自覚を育てることになります。「誰も見ていないからいいや。」「みんなもしているからいいや。」という思いをもっている子どももいること

でしょう。まず、小さな社会である学校で社会性を育て、安全意識も高めたいと思います。

記入欄から (○は保護者の方から ◆は教職員から)

○ときどき帰りが遅く、少し近くまで迎えに行くと、通学路以外の道を帰っていることがあり、家庭でも注意をしました。しっかり安全の大切さを伝えたいと思っています。どのような登下校指導をされているのか教えてもらいたいです。

○今にはじまったことではないのですが、下校時にいつも防犯ブザーがどこかで鳴っていることが多く、実際に助けを求めて鳴らしても誰も気にしないと思います。何年も前から気になっていて、家の子どもにも注意しましたが、もしもの時に心配ですので書かせていただきました。

○下校が少し心配です。道も危ないし誘拐等・・・地域の人と学校で見回りができたらと思います。

○学校の安全のため、パトロールボックスでの見張りが行われていますが、仕事をもつ親にとって相当な負担となります。10～12時、12～14時の時間帯などは、1日休むしかなく代わってもらうのも困難です。そのため、ボックスに入ったことがない人や親同士のトラブルになっているという話も多く聞きます。なんといっても負担の割に安全面の効果があるかどうか疑問です。不審者が来たとしても母親が実際にくい止めることは困難です。他の学校のように日中は施錠し、インターホンで開錠する、時間帯を限定するなど運営について再考していただくことを切にお願いします。

*登下校についてのご意見をいただき、日常的な学級での指導の大切さ、安全ノートを活用した安全指導などが必要であるということを感じました。

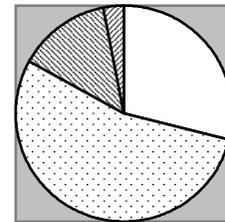
また、防犯指導として、今年度は、右京警察署の方々のご協力で「子ども110番のいえを訪問しよう」という活動を全校の子どもたちといたしました。

「パトロールボックス」については、地域の方々、保護者の方々のご協力で平成17年度からの取組を継続できているのは、たいへんありがたいことです。安全面だけでなく、防犯についてもパトロールボックスにいてくださることが大きな抑止力になっているのは確かです。ただ、運営面でご負担をおかけしておりますので、改善していけるようPTA本部の方々と検討していきたいと思っています。



⑫「学校(授業参観・学級懇談会など)や地域の行事, PTAの行事によく参加されていますか。」(あなたは、地域, PTAの行事によく参加していますか。)

保護者



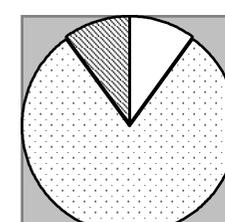
「4」…29%

「3」…54%

「2」…14%

「1」…3%

教職員



「4」…10%

「3」…80%

「2」…10%

「1」…0%

記入欄から (○は保護者の方から ◆は教職員から)

○嵐山小学校は、地域と共に活動されている様子がよく伝わってきます。先生方も相談しやすい環境をつくっていただいていると思います。

○PTA行事が多すぎる。負担になるほどしなくてもいいと思う。

*PTA行事に関しては、本当に熱心に取り組んでくださっています。このことは、学校への関心度が高くなりよいことだと感謝しておりますが、ご負担になりすぎるのもよくないです。より多くの保護者の皆様のご意見を聞かせていただき、検討していかなければなりません。

学校運営協議会の委員の方々からのご意見

□学校の応援団として運営協議会は動きたいと思っています。

□学校が取り組んでおられる日々の活動を学校ホームページでよくみています。今年度になってさらによく更新しておられるので楽しみです。

□地域の行事にもたくさん参加してくれるのを楽しみにしています。子どもから元気をもらえます。

終わりに

『嵐山だより』臨時号を最後まで読んでいただきありがとうございました。今後も、

- ① 評価活動を活性化することで学校改善につなげること
- ② 学校づくりは三者(学校・家庭・地域)が協力して行うこと
- ③ 評価活動の成果を必ず子どもの教育に還元すること

以上の三点を念頭に教職員一同精進したいと考えています。なお、本年度第2回目の学校評価は1月15日(金)の参観・懇談会後に予定しています。どうぞよろしくお願いいたします。